

[成果情報名] 不織布ポットによるウンシュウミカン苗木の生育特性

[要約] 不織布ポットで育成したウンシュウミカン苗木は、地植と樹高、主幹径、葉数、総新梢数および総新梢長に差はない。総乾物重に占める各部位の割合では、細根は大きく、枝および葉は小さくなる。TR率は小さく地下部の割合が大きくなる。

[キーワード] ウンシュウミカン、苗木、不織布ポット、細根、TR率

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[作成年度] 2017年度

[背景・ねらい]

ウンシュウミカンの苗木育成では、早期収量を安定させるために大苗を育成し、定植後の樹冠拡大を行う必要がある。定植後の生育を促進させるためには、細根（直径2mm以下）の発生量を増加させることが重要である。そのため不織布ポットでの苗木の生育特性と細根発生について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 不織布ポットで育成した苗木では、地植と樹高、主幹径、葉数、総新梢数および総新梢長に差はない（表1）。
2. 土壌水分率では、不織布ポットで低く、変動幅が大きくなるが、全期（5～11月）の平均土壌水分率では差はない（図1）。
3. 総乾物重に占める各部位の割合では、不織布ポットで細根は大きく、枝および葉は小さくなる。またTR率は地植より小さく、地下部の割合が大きくなる。（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「長崎果研させぼ1号」の2年生苗を供試した。
2. 試験圃場は細粒赤色土（土壌母材は玄武岩と安山岩の混成）の畑地で、不織布ポットはH社（容量23リットル）を供試し、ボラ土：バーク堆肥：培養土＝2：3：5の容積比率で混合した育苗土を用い、ポットを高さ40cmの畝に地中埋設した（2016年3月28日）。育成期間中は圃場にかん水を3回行った（2016年4月10日、7月24日、8月2日、1回当たり0.5～1.4t）

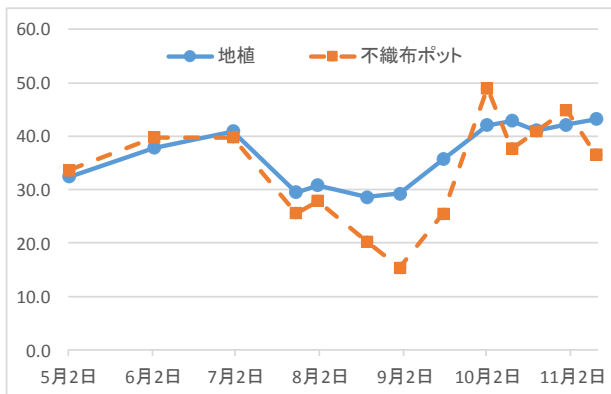
[具体的データ]

表 1 不織布ポット埋設育苗による「長崎果研させぼ1号」の苗木生育（露地）

処理区 ^z	2016.6.6			2016.10.7		2017.3.8		
	樹高 (cm)	主幹径 (mm)	葉数 (枚)	総新梢数 (本)	総新梢長 (cm)	樹高 (cm)	主幹径 (mm)	葉数 (枚)
地植	53.3	5.9	61	15.0	204.3	70.0	11.3	121
不織布ポット	52.0	5.8	57	19.7	229.4	62.0	11.3	161
有意性 ^y	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

^z各処理区3樹の調査平均

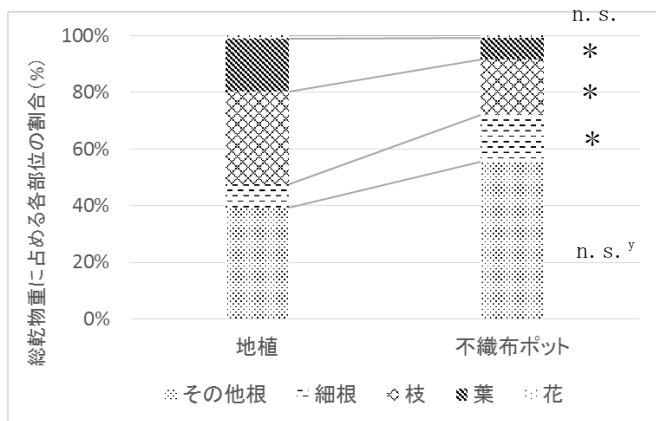
^y*は t 検定により 5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なし



区分	全期平均 土壌水分率±標準偏差(%)
地植	36.6±7.49
不織布ポット	33.6±10.86
有意性 ^y	n.s.

図 1 「長崎果研させぼ1号」での不織布ポットの土壌水分率（TDR計）の推移

^y*は t 検定により 5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なし



区分	TR率 ^x
地植	1.1
不織布ポット	0.4

図 2 不織布ポットによる「させぼ温州」の総乾物重に占める各部位の割合^z（2017年）

^z各区3樹平均

^y*は処理間の各部位に t 検定により 5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なし

^x地上部/地下部

[その他]

研究課題名：新長崎ミカン「長崎果研させぼ1号」の未収益短縮育成システムの確立

予算区分：県単

研究期間：2015～2019年度

研究担当者：早崎宏靖